

元新宮市職員の上野山巳喜彦さん(六三)＝御浜町下市木＝が、同市の自然災害や戦災の記録集「災害史誌」をまとめ、自費で二百冊発行した。新宮市や近隣の自治体施設に寄贈することにしており「地域の歴史を共有し、現在を点検し、未来に備えたい」と思いを語る。(福永保典)

歴史共有 未来に備え

編集に向けた取材は退職後の二〇一三年四月に開始。長年にわたって防災を仕事として担当したこともあり、「防災を考

えるには歴史を知らねばならないのに適切な資料がない」と、自ら足を運んで過去の出来事を調べることにした。

過去二千年分の風水害、地震、大火、感染症、飢饉などの記録を、市史や古文書、手記、新聞などに当たって調査。

中でも昭和と平成に力点を置き、昭和東南海地震(一九四四年)、新宮空襲(四五年)、昭和南海地震(四六年)、紀伊半島豪雨(二〇一一年)に

ついては、体験者三百人以上に話を聞いた。新宮

元市職員 上野山さん 新宮「災害史誌」を出版

空襲を知る八十一歳の女性「忘れられないという。性の『どんなに貧乏して 災害史誌はB5判四百もいから戦争だけは』二十八日で、ツイッターの役所や消防、図書館がないでほしい」の言葉がリユニーション社刊。「若

い人を意識して分かりやすく書いたつもり。過去の失敗は反省して改善し、良かった面は周知して拡大再生産していく。そんな防災対策を考える上で役立ててほしい」と期待する。

一般向けには非売とする考えで、新宮市や熊野市、御浜町、紀宝町などの役所や消防、図書館な



自著を手にする上野山さん＝熊野市で

地震や空襲など体験者取材